

家畜飼養学特論実験 (2単位)

担当者氏名 祐森誠司・谷口信和・池田周平

◆学習・教育目標

家畜栄養学特論において講義したなかでも、試験に供試する動物（家畜）の飼養条件（栄養状態）は動物実験指針の内容に該当する項目であり、適正な状況であるか、否かを常に確認する必要がある。これは市販飼料を給与していても、給与量の妥当性、給与時期（成長ステージ）の妥当性、等と関連している。修士、博士の論文作成や学会報告における供試動物の飼料を試験作製とその成分分析とするが、時間制約があるので、集中的な形式で行う。また、別途畜産関係諸資料を素材として我が国の家畜の飼養管理・飼料構造の実体と問題点について論議し、経営経済的側面からの理解を深めることをねらいとする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

飼料成分 栄養素 栄養要求量 維持・成長
 飼養管理 飼料構造

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
第1 ～ 15週	供試動物（家畜）の飼料 作製	飼育管理動物の体重、年齢、飼育目的等による養分要求量を算出するとともに、給与飼料の栄養成分量を求め、妥当性を判断し、実際にミネラル剤、ビタミン剤の配合から飼料配合を行う。	試験報告（論文）作成時の条件として給与飼料成分等は今後強く確認される可能性が高いので、十分把握しておく。
第16 ～ 25週	作製飼料の成分分析	先に調製した飼料の一般成分分析	保証成分の維持の検証
第26 ～ 30週	飼養管理・飼料構造の実態	畜種別・経営方式別家畜の飼養管理・飼料構造の実態と収益性	我が国における家畜の飼養管理・飼料構造の実態と問題点を経営経済的側面から把握する。

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、資料を配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

改訂 ぜび知っておきたい日本の畜産/平野 進編著/幸書房（2008）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

随時、レポート提出を求め、評価する

◆その他受講上の注意事項

時間割配当を行っているが、作業上の都合で相談のうえ、集中的に実施する場合がある。